

沖縄県野球連盟 那覇支部 学童部 那覇ブロック 真和志地区

審判部員向け審判講習会



期日:2025年1月13日(月)

会場:松島小学校

式次第

1. 座学

- ① 公認野球規則・競技者必携の変更部分おさらい

2. 実技

- ① 準備運動
- ② ジェスチャー(アウト/セーフ)の反復練習
 - (ア) セットポジションの姿勢
 - (イ) 「アウト」のジャッジ & コール
 - (ウ) 「セーフ」のジャッジ & コール
 - (エ) Go・Stop・Call
- ③ 投手にできること(2024 県講習)
 - (ア) ワインドアップポジション
 - (イ) セットポジション
 - (ウ) ボーク
 - i. 投手板に触れている投手が、5.07(a)(1)および(2)項に定める投球動作に違反した場合。
 - ii. 投手板に触れている投手が、一塁または三塁に送球するまねだけして、実際に送球しなかった場合。
 - iii. 投手板に触れている投手が、塁に送球する前に、足を直接その塁の方向に踏み出さなかった場合。
 - iv. 投手板に触れている投手が、走者のいない塁へ送球したり、送球するまねをした場合。ただし、プレイの必要があれば OK。
 - v. 投手が反則投球をした場合。(クイックピッチ含む)
 - vi. 投手が打者に正対しないうちに投球した場合。 ← 「タイム」をかけて投球を中断させ、やり直させる
 - vii. 投手が投手板に触れないで、投球に関連する動作をした場合。
 - viii. 投手が不必要に試合を遅延させた場合。
 - ix. 投手がボールを持たないで、投手板に立つか、これをまたいで立つか、あるいは投手板を離れていて投球するまねをした場合。
 - x. 投手が正規の投球姿勢をとった後、実際に投球するか、塁に送球する場合を除いて、ボールから一方の手を離した場合。
 - xi. 投手板に触れている投手が、故意であろうと偶然であろうと、ボールを落とした場合。
 - xii. 故意四球が企図されたときに、投手がキャッチャースボックスの外にいる捕手に投球した場合。
 - xiii. 投手がセットポジションから投球するに際して、完全に静止しないで投球した場合。
- ④ 一塁審の動き(2024 県講習)
 - (ア) インターバル
 - (イ) 無走者の立ち位置
 - (ウ) Pause・Read・React
 - (エ) 走者一塁の立ち位置
- ⑤ 二塁審の動き
 - (ア) インターバル
 - (イ) 無走者の立ち位置
 - (ウ) 内野内の立ち位置

2024年度野球規則改正

1. 2.01を次のように改める。
 - ✓ 球場における「競技場の設定」のため省略
2. 2.03の最終段落を次のように改め（下線部を改正）、【注】を追加する。
 - ✓ 日本では採用されない「キャンパスバッグのサイズ変更」のため省略
3. 2.05の「各ベースラインから最短25フィート（7.62メートル）離れた場所に、」を削除する。
 - ✓ ベースラインからベンチまでの距離を削除
4. 3.02(a)【注3】および同【軟式注】を削除する。
 - ✓ アマチュア野球における、金属製バットの規定を削除
5. 5.02(c)【注】を【注1】とし、その後に、以下の本文、【原注】、ペナルティ、【注2】を追加する。
 - ✓ 日本では採用されない「内野手の守備位置の制限」のため省略
6. 5.10(k)後段を次のように改める。
 - ✓ （変更前）「試合中は、プレーヤー、控えのプレーヤー、監督、コーチ、トレーナー、バットボーイのほかは、いかなる人もベンチに入ることは許されない」
（変更後）「プレーヤー、監督、コーチ、トレーナーおよび試合中にベンチやブルペンに入ることを許されたクラブ関係者は、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、その他許される理由以外で、競技場に出ることはできない」に改める。
7. 7.01(b)の見出しを「延長回」とし、次のように改める。
 - ✓ 10回以降は「無死走者二塁」の状態から「継続打順」で行う改定のため省略
8. 8.04(a)の（試合終了後）「12時間以内」、(b)前段の「4時間以内に」、(c)前段の（その所属クラブ）「の代表者」、(c)後段の「通知後5日以内に、」を削除する。
 - ✓ (a)審判員は、すべての規則違反またはその他の報告しなければならない出来事を、試合終了後~~12時間以内~~にリーグ会長まで報告する義務がある。ただし、監督またはプレーヤーを退場させた試合には、その理由を付記することを必要とする。
 - ✓ (b)審判員がトレーナー、監督、コーチまたはプレーヤーを次の理由で退場させた場合には、審判員はその詳細を~~4時間以内に~~リーグ会長に報告する義務がある。
 - ✓ (c)は審判と関係が無いため省略
9. 定義46「リーグプレジデント」（リーグ会長）を削除し、以下繰り上げる。

2024年競技者必携改訂について

1. 投手の12秒および20秒ルールの取り扱い基準

- ✓ 投手の12秒および20秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。
- ✓ 20秒ルールの適用は、1度目及び2度目であって も3度目と同様に、「タイム」を宣告して ボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。

2. スポーツマンシップの徹底

- ✓ 野球にヤジは必要ありません。楽しい野球をするために、「尊重・勇気・覚悟」をもって取り組みましょう。

3. シートノック

- ✓ シートノックを行うことのできない補助員もいることから、ベンチ前でのサイドノックを認める。

4. ベンチ前 でのキャッチボール

- ✓ 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からボール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールは認める。また、ブルペンの使用は今まで通り。

5. 学童部、少年部、女子大会の監督、コーチ

- ✓ 20歳以上でなければならない。

6. 抗議権を有する者

- ✓ 監督か当該プレーヤーのいずれか1名。

7. 指名打者の取り扱い

- ✓ 連盟が主催する大会においては、指名打者ルールを使用することができる。ただし、学童部、少年部、女子大会は二刀流選手を採用しない。

8. 試合中、控え選手がグラウンドでできること

- ① 攻守交代時にファウルグラウンドで外野方向へのランニングをすること。
- ② 攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ること。ただし、球審の「プレイ」宣告までにはベンチに戻ること。
- ③ 攻守交代時に外野手とキャッチボールをすること。

9. 守備側のタイムの回数制限

- ✓ 監督またはコーチ等が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内。延長戦は1イニングに1回。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。なお、5.10 ②は適用しない。
- ✓ 投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせサインの確認のために、準備投球の前あるいは後に少しだけ会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。

10. 没収試合の防止に向けて

- ✓ 過去の通達を再整理した上で、事例を加え、その対処方法を解説した「2023年12月BFJ通知」に全文差し替え。

11. 質疑応答の回答を見直した。

- ✓ 【問１９】先攻チームが１点リードして迎えた最終回の裏、１アウト走者二・三塁、打者が妨害されながらも右翼フライを打って２アウトとなったが、三塁走者はリタッチして生還、二塁走者もリタッチして右翼手の本塁悪送球によって三塁を回って生還した。どう処置したらよいか。

（変更前）【答】監督の申し出がなければボールデッドとし、三塁走者を三塁に、二塁走者を二塁に戻し、打者走者は打撃妨害で一塁が与えられる。（5.05b(3)）

（変更後）【答】打者は打撃妨害で一塁へ、走者を戻してから攻撃側監督に選択権を与える。（サヨナラのケース）（5.05b(3)野球審判員マニュアル第４版 165P 参照）

- ✓ 【問４２】１アウト走者一・二塁、ヒット・エンド・ランが企てられ、打者は右中間へフライを打った。進塁を企てスタートをきっていた二塁走者はリタッチのため三塁直前から二塁に戻ろうとしたが、一塁走者は二塁を越えており、二・三塁間に二人の走者がいたとき、捕球した中堅手からの一塁への送球が悪送球となってスタンドに入った。二塁を越えていた一塁走者にも本塁が与えられるか。

（変更前）【答】２人の走者に本塁が与えられるが、一塁走者は一塁のリタッチを果たしていないため、守備側のアピールがあればアウトになる。ただし、リタッチのために一塁に戻った場合は、その走者には三塁が与えられる。

したがって、審判員としては、二・三塁間にいた走者にはまず本塁を与え、一塁走者がリタッチのために一塁に戻ったら改めて三塁を与える。（5.06b(4)(G)【原注】、(I)【原注２】）

（変更後）【答】本塁は与えられない。リタッチを果たさなければならない塁、つまり投手の投球当時占有していた塁《一塁》が進塁の基準となるから三塁が与えられる。（5.06b(4)(G)、(I)【原注２】、5.09(b)(5)【注】）

- ✓ 【問１８７】投手が乱調になったので監督がマウンドまで行ってアドバイスをして戻ったが、投手が四球を連発したので監督が再び投手のところへ行行った。差し支えないか。

（変更前）【答】同一イニングにその投手のところへ２度行ったので、その投手は自動的に交代させなければならない。

なお連盟では、他の守備位置に付くことが許される。（5.10I、競技に関する連盟特別規則(各大会共通)6(2)、12(2)）

監督またはコーチ等が、同一イニングに、同一投手のところへ２度行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、プレーヤーに指示を与えてそのまま投手のところへ行かせた場合）は、その投手は自動的に交代することになる。なお救援投手の場合は投球義務を終了してから交代することになる。（5.10f）

「連盟」では、監督またはコーチ等がプレーヤーとして試合に出場している場合は、投手の所へ行けば野手としての１度と数えるが、協議があまり長引けば、監督またはコーチ等が投手の所へ１度行ったこととして通告する。

なお、監督またはコーチ等が、投手の所へ１度行くか、行ったとみなしたときは、球審は、あと１度行けば交代になる旨を通告する。もし、１度目に通告しなかった場合は、２度目に行こうとしたときその旨を監督に知らせる。（5.10I、競技に関する連盟特別規則(各大会共通)6(2)、12(2)）

（変更後）【答】１試合３回以内なら差し支えない。（5.10(2)は適用しない）

- ✓ 【問５２】打者が中堅前に安打し、一塁を回ったときボールを持たない一塁手と衝突して倒れた。中堅手から一塁へ送球されてアウトになった。どう処置したらよいか。

（変更前）【答】オブストラクションで打者走者を一塁に生かす。（6.01h(2)）

（変更後）【答】プレイ落着後協議して、オブストラクションで打者走者を一塁に生かすか二塁への進塁を認める。（6.01h(2)）

12. ヒット・バイ・ピッチ 死球 の判定

- ✓ 競技者必携 2023 以前には、「打者が投球を避けようとするのが条件である。（身体が打者席の捕手寄りではなく後方向に移動すること）」と記載されていたが、（）内を削除する。